

## 相浦先生の入試センター長時代の思い出

相浦義郎教授は、一九九六年四月一日から二〇〇〇年一〇月四日まで入試センター長を務められた。この頃は、全国の私立大学が入試制度の改革を競い合った時代であった。本学でも入試センターが各学部と協力をして入試制度を改革した。その先頭にたつて改革を進められたのが相浦教授である。この時期、私は学部長として入試改革のお手伝いをする事となった。それは、当時の市川太一学長の下で「入試改革プロジェクト」(メンバーは、小川、西川、橋本、森岡、それに私の五人であった。)が立ち上げられ、一九九八年三月に「入試制度の現状と課題」を提出するという作業を通じてであった。相浦教授は、このプロジェクトの正式メンバーではなかったが、当時本館三階にあった入試事務室での会議には可能な限り参加され、特筆すべきことは、このプロジェクトが行った提言を、実に精力的に具体化されたことであった。大変なご苦勞があったことと推察される。

相浦教授が手がけられた入試制度の改革の主なものを列記すると、一九九七年度入試では、①公募推薦入試の試験日を統一し、②センター試験利用入試(前期)を導入した。一九九八年度入試では、①指定校推薦入試、および②マークシート解答方式を導入した。一九九九年度入試では、①センター試験利用入試(後期)を導入し、②浜田試験場を開設した。二〇〇〇年度入試では、①一般入試にB日程を設け、同一学科併願を可能とする制度を導入し、②B日程に徳山、佐賀の両試験場を開設した。最後に、二〇〇一年度入試ではスカラシップ入試制度を導入した。いまから回顧すれば、この四年半は入試制度の改革が大学生き残り策として有効に作用

した時期であった。この時期を相浦教授は、小川課長（当時）をはじめとする入試センター職員とスクラムを組んで駆け抜けられた。入試センターに行くとき、資料を読んでおられる相浦教授の姿をいつもみかけることができた。今から思うと懐かしい光景である。ご冥福をお祈りする。

広島修道大学法学部教授 植田 博